

# 生成AI施策の「整合性の縫い目」：知財推進計画2026 vs AI基本計画素案

## 知財推進計画2026 (保護・熱量)

## AI基本計画素案 (活用・冷静)

共通の旗印：  
「イノベーション促進」と  
「リスク対応」の両立

イノベーション  リスク対応

 AI法  
(令和7年法第53号) 高市早苗総理  
共通の法的基盤と本部長

### 2つの計画の 「温度差」と非対称性

#### 「保護」の知財計画

クリエイターへの対価還元、法的保護を具体化

#### 具体的な施策における差異

##### 透明性確保の手段



プリンシプル・コード(仮称)  
中核施策として詳述  
(コンプライ・オア・エクスプレイン導入)

##### 肖像・声の保護



声優・俳優の「声」の保護への踏み込み  
不正競争防止法改正の検討を含む  
ハードロー化を視野

##### 規制の強度の違い



ハードローの含み  
制度的救済措置を並走

#### ステークホルダーの反応と課題

ステークホルダー	主な主張・懸念点
コンテンツ権利者 (NAFCA, 日本新聞協会等)	商用学習は「オプトイン」を原則とすべき。 罰則がないソフトローの実効性を懸念。
AI開発者・産業界 (BSA, JIPA等)	過度な開示要求(原則2・3)に抵抗。 インプット段階の規制はAI事業に悪影響。
検討会委員・専門家	罰則なき日本のソフトローではGAFAや中国勢への 遵守インセンティブが弱いとの指摘。

明示的参照・具体的指針  
AI計画を詳しく参照、  
プリンシプル・コードを詳述

抽象的言及・ゼロ言及

#### 政策の力点(ベクトル): 「活用」のAI計画

知財計画・プリンシプル・コードへの  
言及なし、抽象的な「透明性確保」

#### 「活用」のAI計画

「世界で最も活用しやすい国」を掲げ、実装を急ぐ

抽象的な「透明性確保」  
記述に留まる



抽象的な「透明性確保」  
記述に留まる

肖像・声の保護  
不正競争防止法改正の  
ハードロー化を視野



技術的対応(ディープフェイク対策)  
に重点を置く

技術的対応(デヴィーブ対策)  
制度的対応にしない  
コンプライを導入



アジャイル・ガバナンス  
「永遠のβ版」として  
最小規制・柔軟な更新

#### 実務上のアクションガイド



優先参照順位  
知財対応は「知財推進計画2026」を  
一次ソースに。AI基本計画は上位  
フレーム、実務指針は「プリンシ  
プル・コード」確定版を最優先



パブリックコメント(6月23日締切)  
計画間の連携明記を求める意見  
提出。AI基本計画側に知財施策  
との連携を具体的に書き込む  
よう働きかけることを推奨